令和３年度「京都市生涯学習市民フォーラム」アスニー特別講演会

コ ロ ナ 時 代 の 不 易 流 行

京都市生涯学習市民フォーラム

京都市と生涯学習に関わる諸団体の連携・協力関係のもと，市民の持つ活力と英知を結集し，まち全体を学びの場とする，生涯学習のまちづくりを推進するための ２４４団体からなるネットワーク組織。1994 年　１ 月 20 日設立（平安建都 1200 年を記念して設立）。

令和３年１１月１２日，京都アスニー４階ホールにて「京都市生涯学習市民フォーラム」の総会を開催しました。
アスニー特別講演会では，講演ゲストに村上圭子さんを迎え，「コロナ時代の不易流行」をテーマにお話しいただきました。

- **令和３年１１月１２日（金）**
  午後２時～３時　京都アスニー　４階ホール
- **講演ゲスト　村上　圭子　氏**
  前京都市副市長，（公財）京都文化交流コンベンションビューロー専務理事

村上（むらかみ）　圭子（けいこ）　氏　プロフィール

前京都市副市長，（公財）京都文化交流コンベンションビューロー専務理事。1983 年京都市採用。産業観光局長・産業戦略監などを歴任され，2017 年に京都市初の女性副市長に就任。現在は，京都の文化・観光などの魅力を世界に発信し，国際会議の誘致活動などに御尽力。

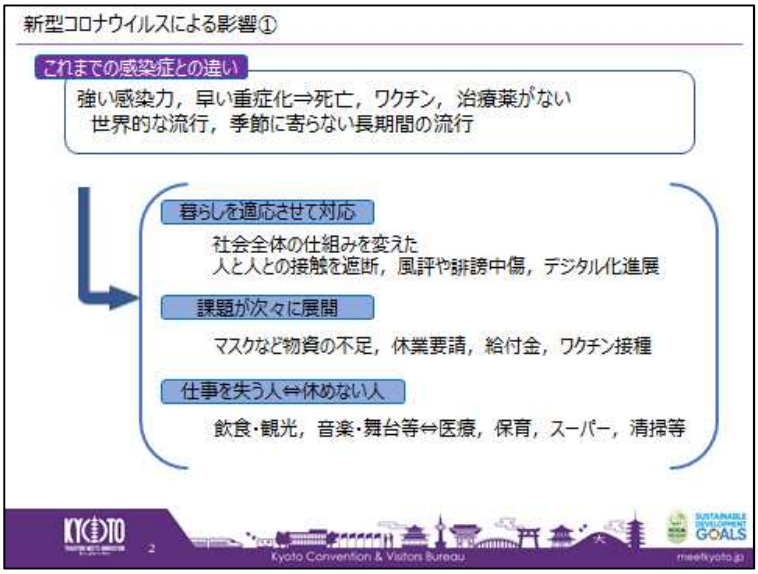
こんにちは。生涯学習マスコットのマナビィです。
ブンブン飛び回って，皆さんの学びを応援しています！
京都市生涯学習市民フォーラムのアスニー特別講演会の様子をリポートします♪

● 村上　圭子　氏　自己紹介

皆様こんにちは。村上圭子でございます。今，御紹介に与りました通りでございます。今日は自己紹介をですね，いつもいろんなところで出すよりも少し多めに，出しております。これ１行目が多いんですよ。なかなか小学校からご紹介することないんですけども，京都の人ではありませんというのをですね，ちょっと見ていただこうかなと思って。京都市職員になるまではですね，京都の外で育って参りました。けれども，職員になってから３４年間，先ほど門川市長もおっしゃって

いただきましたけども，副市長という大事なお仕事まで任せていただくようになって，すごいところだな京都は，と思います。他所から来た者をですね，こんなに大事に育ててくれて使ってくれて，これが本当に都の力なんだなあということを感じながらですね。今日はお仕事の中で，私が感じた京都の力みたいなことをご紹介しながら，このコロナのこの時代に，松本会長も最初のところでおっしゃってましたけども，本当に大変なんだけども，ここのところから，みんなで一生懸命こう，いろんなことを考えてですね，より良い京都にしていこうと，そういうことをどうしたらできるかなということを，皆様と一緒に，考えて参りたいというふうに思いますので，今日は少し参加型でですね，所々皆様これどうでしょうかって聞きましたら，手を挙げていただいて，意思表示をしていただくということにご協力いただければと思います。大丈夫ですかね，手挙がりますかね。１回挙げてみます。（会場挙手）挙がりました，大丈夫です皆さん，お元気で。あの，村上をどっかで見たことありますよっていう人。（会場挙手）ありがとうございます。本当にね，もうこんな他所から来た者をですね，もう恐縮です。一番下のところに，今の仕事，京都文化交流コンベンションビューローというのを書いてるんですけども，この組織を知ってますよという方。（会場挙手）ありがとうございます。これからお伝えさせていただくということで，大変あの，喜んでいます。こんな機会がありましてですね。

●　新型コロナウイルスによる影響



では，ちょっとこの間のコロナの状況なんかをですね，振り返ってみたいと思います。もう２年ぐらい経ちますんでね，最初の頃のこと忘れてるかもしれませんけども，何しろこれまで経験したことがないような感染力と，罹ったらもう死んじゃうかもしれないぐらいの重症化が見込まれるような恐ろしい病気ということで，急に社会の生活が一変しまして。

まずはですね，マスクがないというところから始まって，薬局の前に列ができてた，こんなことも思い出しましてですね。それから飲食店ですとかデパートなんかまで休業要請されて，もう人が集まるところ全部店閉まっちゃって，なんていう，お家で過ごしてくださいねとか言ってね，首相が犬を抱いて居たりしてました。

そういうことも思い出しながらですね，振り返っていきたいんですけども。この中で，

飲食とか観光やってた方は本当に仕事を失って，音楽ですとか，舞台芸術ですとかそういう方も出番がなくなって，仕事を失った人もいれば，こんな時でも仕事が休めない医療の最前線にいる方，保育で子供さんを預かる方，教育の現場の方，スーパーの方，ごみを集める方，どうしても休めない方々に，こういうときに，そういう人たちのありがたさが分かったねと言って，私ども京都市の環境政策局の職員なんかもね，現場でマスクをいただいたとかね，感謝の言葉をいただいたなんていうこともありましたけども，そういう逆にいいことも少しはあったんじゃないかなって，こんな事も振り返ってみたいと思います。

病院とか，高齢者施設で面会のときに，感染が拡大したっていうことがありましてですね，面会をもう本当に謝絶にして，その代わりあんまり寂しいからオンラインにしようということで，京都市は早くから，そういう福祉施設にオンライン化の補助をいたしまして，随分早いタイミングでですね，完全オンライン化なんかも，普及しました。会議もオンライン，先ほどの御挨拶もそうでしたけどもいろんなところでオンライン，学校の授業もですね，子供たちもオンラインで，友達と会えなくて寂しいよ，なんていうときもありましたけども，教育委員会，京都市の教育委員会は本当にね，現場現場で工夫して，少しでも子どもたちが会えるように，先生たちと連絡が取れるようにと，そういうこともやって参りました。

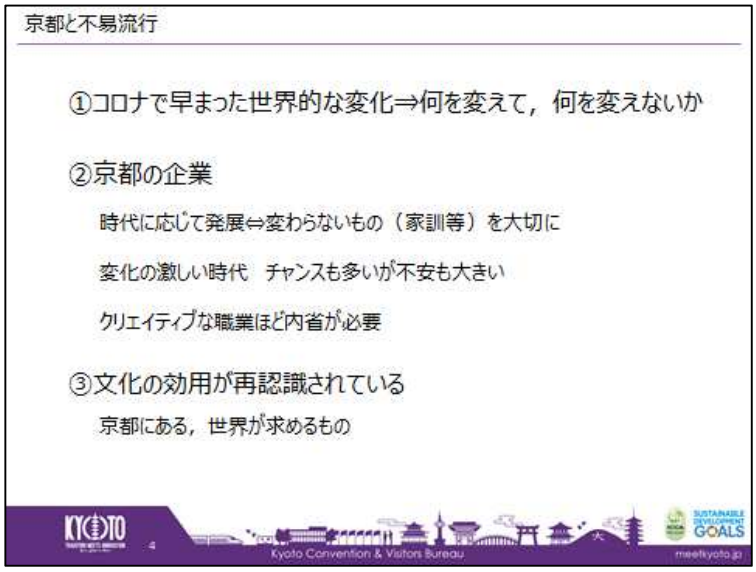
京都市ではですね，この状況の変化に対応するために第一線で働いてる，先ほど申しました保健師さんですとか医療機関の方，そういう前線の方を，それ以外の職員がバックアップしようということで，何とかですね，手の空いてるところから職員を補充してということで，見た目はですね，保健医療の現場なんかが忙しそうに見えたかもしれませんけど，実は人事とか財政とか，そういう裏で職員を支える部署も随分忙しい。そしてこれまでに経験したことのないことをやって参りました。いろんな部署が一体になって動くということが何より大事だなと思いましたので，私も副市長時代，保健衛生なんかを担当しておりましたけれども，保健衛生の私，それから危機管理を担当してる副市長，それから議会ですとか財政を担当してる副市長みんな役割分担違いましたので，もう３人がしょっちゅう毎朝のように集まって，これはどうしようか，この予算はどうやって使ったら一番効果的やろか，市長も含めまして，４人で集まってることがすごく増

えた１年間でありました。そして組織が一体化して動くということが，すごく大事なことで，市長はね，他所の自治体に比べるのはあれですけどそんな再々，カメラの前であれやりますこれやりますって，パフォーマンスはしてこなかったんですけれども，その代わりですね内部の状況をずっと見てて，保健所にも何べん足運んでくれはったかわからない。職員の顔を見ながらですね，組織をまとめることに努力をしてこられました。

● 京都と不易流行

で，こんな状況でございましたけれども，この京都の持ってる力というのを，私は産業観光局長という仕事をやらせてもらいましたので，経済界の皆様からいろいろと教えてもらったことありました。その中でですね，何を変えて何を変えないかっていうことが，今，こんなに変化した，暮らしの中，暮らしが変化しちゃった時代の中で，それがすごく大事だ，大事なことだなというふうに思いましたので，この不易流行ということが，これは京都で長く続いてきた企業の方々が，家訓，あるいは社是などとして，すごく掲げてることが多い言葉であります。

「不易」というのは変えない，「流行」は変える，時代に合わせて変えていくものがあれば，大事にしていって絶対変えないものもあるっていうところを，それが何なのかをしっかり考えた企業こそが生き残るということであります。家訓等で，例えばお客様を大事にする，それから世の中の利益をまず考えるといった考え方のところは，決して変えてはいけないけれども，どんな商品を作るか，どんなことを，どんな売り方をするか，これは時代に応じて，もうどんどん変えていこうということで，伝統産業の方々なんかも技術は大事にしながらどんどん新しい製品を考えていく，これが京都の企業の強みだったというふうに思います。



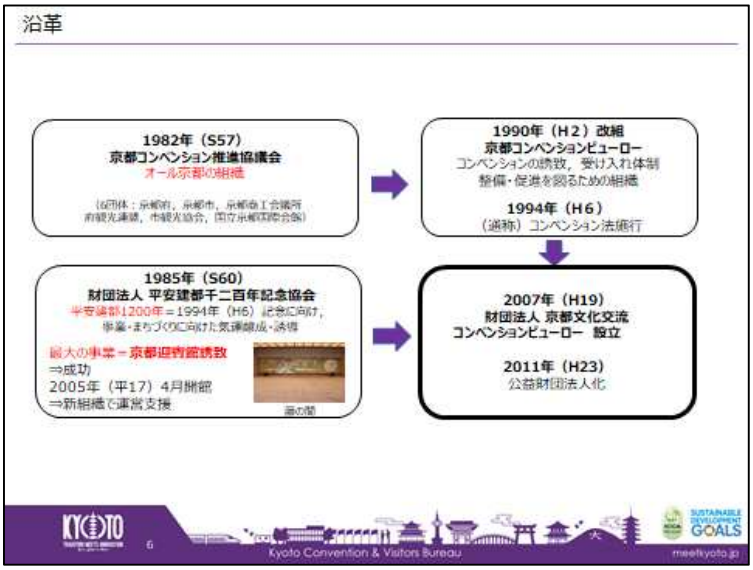
今，変化の激しい時代ですから新商品を出して，先ほど松本会長もおっしゃってましたけども，新しいお薬なんかが今開発されたら，もうどんなに大きな利益があるかわからない。それ以外にも，いろいろ，暮らしの中で変化があるので，ヒット商品が生まれるかもしれない，チャンスも大きいけれども，その代わり自分たちの商売はもう立ち行かなくなるかもしれないという，例えば外食産業の方々なんかは大きな不安を抱えてらっしゃると思います。で，今，決まった決まりきった仕事はですね，ＡＩがやってくれ

る，こんな時代になりましたので，人間の方はクリエイティブな仕事を創造的な仕事が求められるんですけども，そういう仕事の方こそ深い内省，よくよく考えるということが必要なのではないかなと思いますし，その土台に心を癒す，心を温めるっていうことが大事になって参りますので，文化，音楽とか，絵画で心を癒して，そしてリフレッシュした気持ちで新たなことを考えていく，こういう文化の効用なんかも再認識をされています。これは世界的なことです。だから，ＩＴ企業の経営者が京都に来て座禅をしたりっていうようなお話があるわけですよね。これは京都が世界から求められていることが大きいというふうに思います。

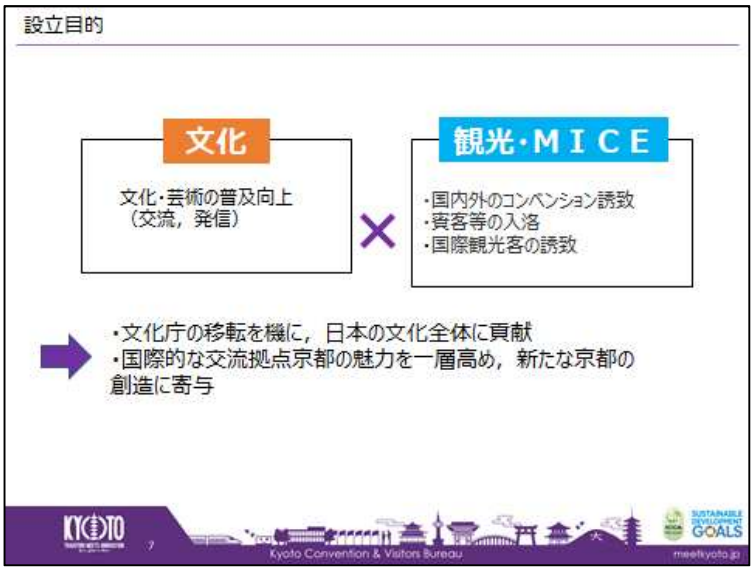
● 京都文化交流コンベンションビューローとは

それで先ほど皆様があまりご存知でなかった，私どもの「京都文化交流コンベンションビューロー」，ここでご紹介したいんですけども，すごい長い名前なんですけどね。でも文化交流っていうのが今ほど大事なときはない。そしてコンベンションビューローというのはどんな仕事をしてきたのか，少しご紹介します。

コンベンションビューローには馴染みはなくてもですね，平安建都１２００年記念協会なんていうのは，どっかに知ってるよという方もいらっしゃるかもしれません。京都が１２００年を迎えたときにですね，迎賓館を京都に作ろうということを大きく掲げて事業をやって参りまして，今，京都迎賓館ありますけれども，あれができるのがちょうど，平安建都１２００年記念協会が取り組んだ大きな仕事で，その後継組織であります私どものコンベンションビューローでは，この迎賓館の仕事も，

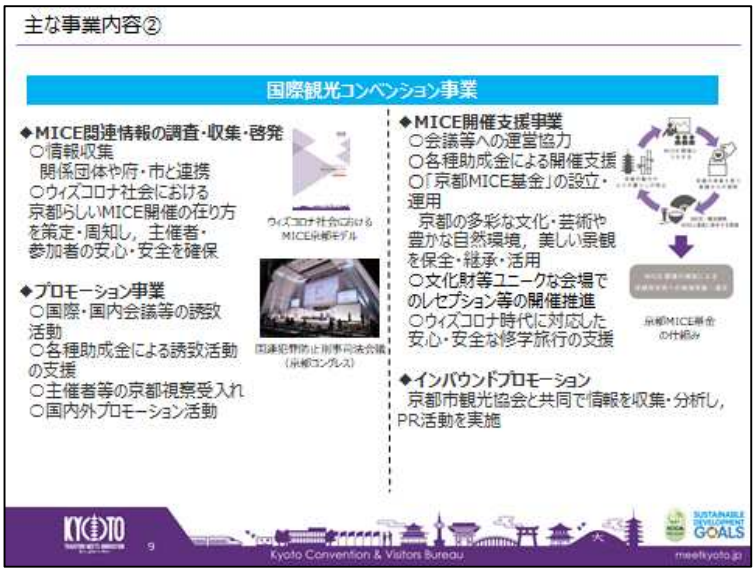


それからもともとやってたコンベンション，国際会議などを京都に誘致してこようっていう団体だったんですけども，こことここが一緒になりましてね，国際会議などの誘致と，京都の文化の力っていうのを両方合わせて，公益財団法人として運営しているのが私どもの組織であります。こういう形になります。



文化交流事業ではですね，古典の日推進事業，先日お亡くなりになった瀬戸内寂聴先生の新聞記事出てましたけども，この古典の日の推進に当たりましては瀬戸内先生，源氏物語も訳されましたのでね，随分応援をしていただきまして，古典の日が法制化されたということにも大きなお力をいただきました。この古典の日を私どもまだ推進を続けています。古典の中にこそ，日本人の大事な心があって，これをもう一度読むことで新たなものを生んでいきたい。それから先ほど申しました迎賓館の支援事業などもやっております。

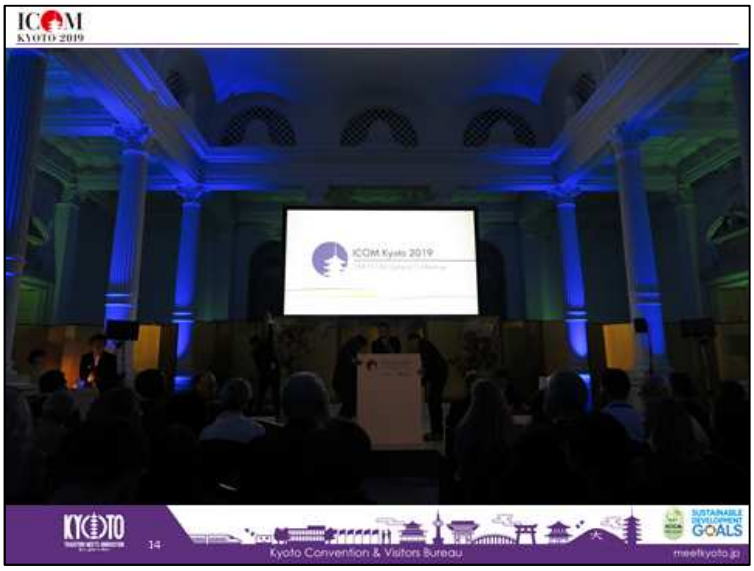
そして，コンベンションの方ですね。国際会議を開きました。ＣＯＰ３なんていうのが，古くは有名なんですけども，それ以外にも大きな大きな国際会議をたくさん開くことで，京都の名前を世界にアピールし，それから大学も多いところですので，学術振興で世界の発展を進めてきました。で，京都でね，開催すると人が多く集まるんだそうです。学会の主催者の方が大体２割増しから３割増しの人が集まるので，一応京都市もですね，貧乏な中でも誘致の支援金なんかも用意してるんですけども，大概いらないよって，たくさん人が集まって黒字になったからなんて言われまして，大変助かる。これは京都の魅力の一つだというふうに思います。コンベンション，国際会議も含めまして，マイスと呼びますけれども，Ｍ・Ｉ・Ｃ・Ｅなんていう言葉もあります。とにかく京都に人が集まって，会議をしたり，楽しんだり，展示会をしたり，見本市をしたりと，こういう学術や産業に貢献する活動であります。これを誘致する国際観光コンベンション事業ということで，いろんな支援やプロモーションなどもやっております。



● 京都文化交流コンベンションビューローの取組紹介

ちょっとここからですね，いろいろ写真で実際の様子を見ていただければと思います。これは，ＩＣＯＭ（アイコム）といいまして，博物館会議であります。国際博物館会議というのが開かれたのは，これはご存知の方，ＩＣＯＭを覚えている。（会場挙手）ありがとうございます。コンベンションビューローよりはよほどＩＣＯＭの方が知名度あるようでございますけれども，このときにですね，京都，京都市の教育委員会が事務局をしております，京都市（内）博物館施

設（連絡）協議会という所が非常に大きな力を発揮しましてですね，京都の中にある２００以上の博物館などを集めましてですね，これを誘致して参りました。京都で京都に世界の博物館や美術館の学芸員ですとか，いろんな方々が集まりましてですね，美術館のあり方，博物館のあり方等を協議して，これオープニングの様子ですけれども，能のですね，実演をしているところでございます。これは国際会議場の庭でですねレセプションパーティーをして，こういうふうに親しくしてですね，世界の学芸員たちが意見交換を直接すると，こういうようなことがすごく大事なことになって参ります。こういう会場で，これはね閉会式なんですけれども，これ国立京都博物館でやってます。国立京都博物館がこういう会議場としても使えるということで，京都には様々な魅力的な施設がいっぱいある。これも京都で開催したいということの一つであります。これはね，すごく立派な会議でした。日本で開催されたのは初めてということですね。それから日本っていうかアジアで開催されたのは初めてだったというふうに思っています。



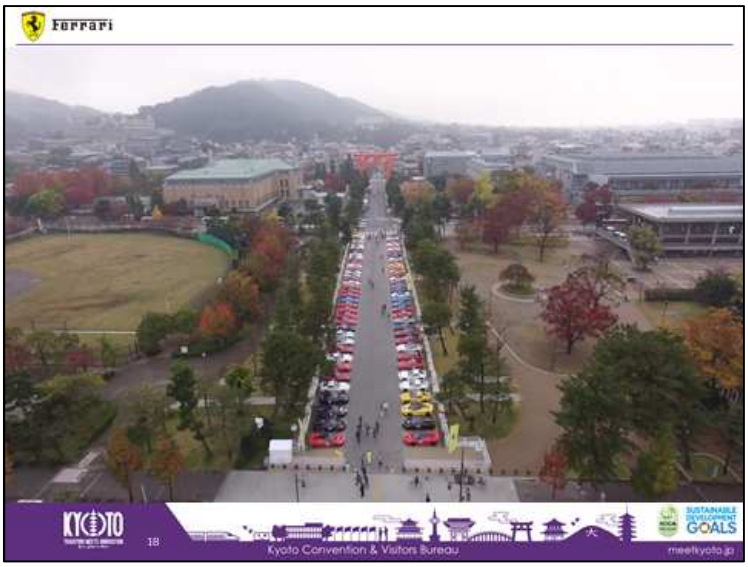
それから次はですね，これは割と最近なんですけれども，もともと２０２０年の４月に開催する予定だったんですけども，コロナのために２０２１年３月に延期されまして，コロナ後に開催された世界的な会議では初めてということで，こうしてリアルで集まっていただくのはですね，感染防止対策を万全にしながら，何とか開催することができて。ご挨拶をしてますのは上川

法務大臣（当時）でございますけれども，法務大臣も，これが京都で，リアルで開催できたことを高く評価していただいてます。国連犯罪防止刑事司法会議ということで，犯罪をどうやって防止しようかということを世界の関係者の皆さんが相談するという会議でありました。この会議をきっかけにですね，京都でも犯罪防止，どうやってしようかという議論，随分盛り上がりまして。犯罪の多くは再犯なんですよ。一度犯罪を犯した人が，刑務所に入って出てきたけども立ち直れずにまた犯罪に走ってしまうというような，そういうことが非常に多いので，その人たちの立ち直りを支える保護司の皆さんの活動なんかが，この時にすごく大きくクローズアップされました。そして関係者の皆様ですね，どうやったらそういう方々の立ち直りを支えることができるかというようなこと，非行に走った少年たちの立ち直りなども非常に真剣に議論された大事な会議だったと思います。こういうことが京都でできます。

ここはちょっと，感染防止をしながらもですね，せっかく京都にお越しいただいたので，少しでもということで，このときは，国際会議場から出てはならんということだったので，様々な文化の関係者の方が国際会議場のロビーにお越しをいただきまして，ここで，お茶を飲んでいただいたりですね，それから様々な伝統工芸品の実演を見ていただいたりというような，ちょっとでも文化を感じていただく，おもてなしをしたところでございます。これは非常に高く評価をされましてですね，世界的にも初めてだったということで京都モデルということで，この感染防止をしながらの国際会議の開始ということができた次第です。

次はガラッと変わりまして，これは平安神宮です。停まってる外車はフェラーリであります。１台がとても高い車だというふうに聞いてるんですけども，このフェラーリ，２０１６年のイベントなんですけどイタリアのフェラーリ社が，ご自分のところの大事なお客様を集めて展示会とそれからイベントを催す，その会場に京都の平安神宮を選んでくださいました。で，何と，神宮道にこれだけのフェラーリが並んで

おります。１台でもお家が買えそうな車でございますので，これだけ並んだら一体いくらするのか全然見当もつきませんけども，このフェラーリたちがですね，ここから出発して，奈良ですとか大阪などに，こう走りに行くというようなイベントだったそうです。



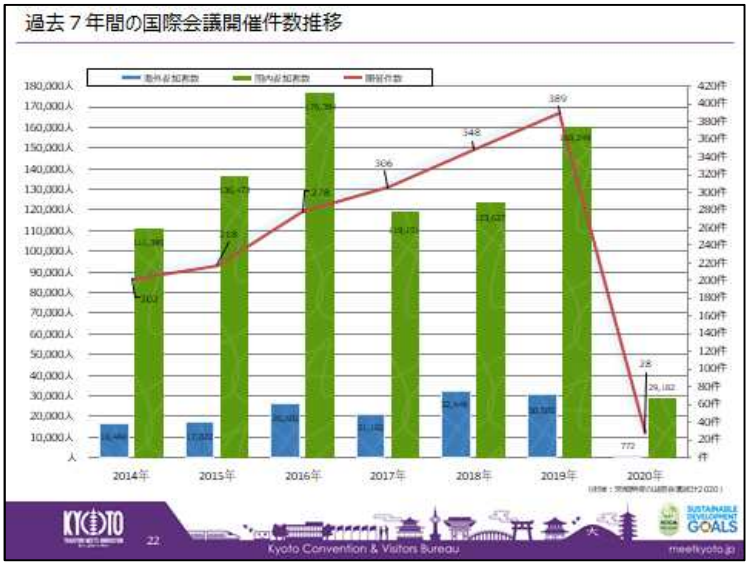
これは１人でフェラーリを何台も買えるような上得意の皆さんがここに来てですね，京都を満喫して帰っていただいたということで，この東福寺のお庭でですね，こういうレセプションパーティーももう皆さん和服に着替えてらっしゃいます。こんなふうに楽しんでもらえるところってやっぱり京都なんだなっていうふうに思います。

こちらちょっと変わりましてルイ・ヴィトン。ルイ・ヴィトンをご存知の方。（会場挙手）ご存知ですね。すばらしいですね，このすばらしいブランドのところが，京都で上得意様を集めて，会議を開催されるということですね，やっていただきました。

で，ルイ・ヴィトン社さんはですね，この祇園の新橋のところの道をですね，借り切って，ここへルイ・ヴィトンのマークを掲げてですね，ファッションショーの後に，貸し切ったイベントをされたということで，２０１７年なんですけども，このとき世界のメディアでですね，この様子が放送されました。もしこれをですね，京都市が広告料として払って宣伝してもらったらいくらになるかと言いますと，１２５億円ぐらい掛かるんだそうです。これをルイ・ヴィトンさんがやってくださったということで，６００名ぐらいの方が参加くださ

ったんですけども，その参加者以上にですね，大変京都のブランドがまたルイ・ヴィトンさんとともにですね，上がっていったというようなことでありまして。この提灯によく見るとルイ・ヴィトンの柄が，伝統産業品の提灯にルイ・ヴィトンさんがタイアップされたということで，祇園のお姉さんがですね，そこにご案内してますけども，花街の文化なんかも満喫して帰っていただいたということで。

こういうふうにちょっとコンベンション頑張ってきたんですけども，やっぱりコロナでですね，２０１９年までは着々と増え続けてきた国際会議の開催件数が，一時３８９件と言いますと，毎日毎日，京都のどこかで大きな会議が開かれているという状況からですね，突然２０２０年には２８件ということで，大変寂しいことになりましたけれども，それでも開けるんやと思って，京都市，京都の中に，国際的な研究者がいる大学が幾つかありますので，何とかそれで開いていただいた。国内の会議もこの間開かれています。で，会議の多くは医学系の会議です。やっぱりこんなときこそですね，医学の話をしないといけないということで，もうすぐ本当に世界のためにですよね，ワクチン開発も治療薬もどっかの一つの国のためじゃないです。世界のためにどうやったらいいかということで世界の研究者が集まってやる。こういうコンベンションというのはすごく大事なことだというふうに思います。



で，先ほど申しました，ＭＩＣＥのウィズコロナ社会での，こういうＭＩＣＥ開催をどうするかというモデルですね。ちょっとこの中にも映ってておりますけれども，京都で会議を開いていただけましたら例

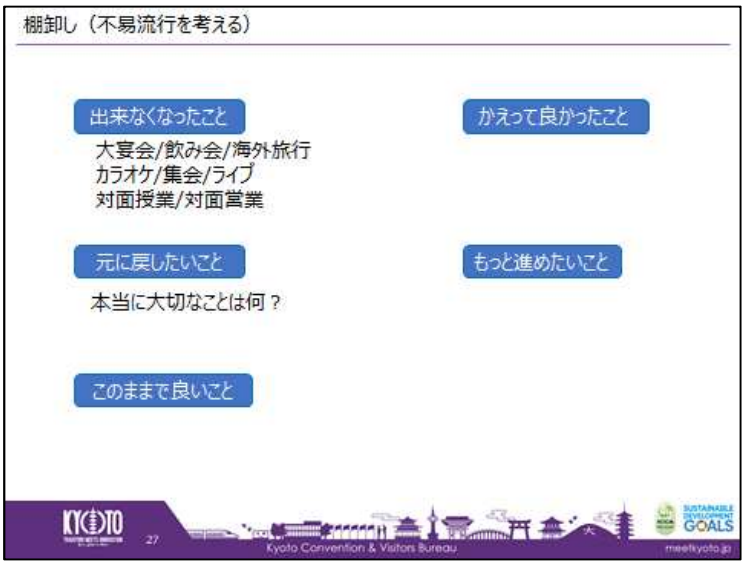
えば，伝統産業品を使いましたバッグ。普通ですと会議に参加しますとビニールのバッグなんかがね配られて，そこに資料を入れたりするんですけど，京都では伝統産業品のバッグを使いますとかですね。それから環境にも意識して，リユースできるような容器を使います。伝統工芸品を販売します。琴なんかも聞いていただきますということで，京都で開いたら単なる会議じゃない会議を味わっていただけますというのが，私共の売りでございまして。これは文化都市京都ならではのことだということで，会議に参加していただいた皆さんにはですね，ぜひその満足感を，お金で置いていって欲しいな，というふうに思いまして，京都ＭＩＣＥ基金というものを作りました。これまだ今，会議は低調なんですけども，これから増えて参りましたら，会議に参加してよかったな，ルイ・ヴィトンとか，フェラーリとかのイベントに参加した・・・これ京都に来たからこんな楽しかったんやなと思った方は，ぜひ京都に御寄附をいただいてですね，皆様が次に来られるときにも京都が京都のままでありますように，文化ですとか伝統産業に，このいただいたお金を使いますよというようなこともですね，うちのコンベンションビューローで取り組みをしております。

　それから，この京都市観光協会とも一緒になりましてですね，観光関係者は中小企業が多いんですよ。だから，職域接種で大企業の方々が，ワクチン接種ができても，小さなお店の方々は打つところがない。そういう方々のために，観光協会とコンベンションビューローで組みましてですね，観光ワクチン接種という事業をやりました。外食産業や観光でフロントに立たれる方

こそ，感染の危険性がすごく高い。そういう方々こそ早くワクチンを打って欲しいということで，こういう取り組みをいたしましたし，それから外国からですね，お越しになれない，或いは外からお越しになれない間には，何とか京都の皆さんで，京都の宿泊や京都の食を支えていただこうなんていうキャンペーンもやって参りました。

様々な取り組みをしておりますコンベンションビューロー，もし，お見知りおきいただければありがたいと思います。

● 不易流行を考える



ここで少し本題の方に戻りましてですね。私たちは，様々なことが，このコロナでできなくなりました。大きな宴会できなくなりました，飲み会行けなくなりました，カラオケも駄目です。ライブも楽しめなくなりました。授業も対面でできなくなりましたなんて，できなくなったことがいっぱいあるんですけれども。この中で本当に皆さん元に戻したいことって何かなというのを，一回一緒に考えてみれたらどうかな，と思います。

元に戻したいこと本当に大切なこと何かしら。忘年会はぜひ復活させたいっていう方。（会場挙手）はい，いらっしゃいます。カラオケはどうしても復活して欲しい。（会場挙手）ちょっと増えましたですね。やっぱり，人が集まるってことは大事だ，結婚式とか法事とかもあるでしょう。人が集まること自体は拒否しないで欲しいな。（会場挙手）そうですね，そうですね，大分増えましたですね。様々なライブって書いてますけども，演劇とか音楽とか，そういうものを生で見るっていうことが，したいなっていう方。（会場挙手）増えましたですね，嬉しいです。文化ですからね，もう本当に出番のなくなった方々がですね，大変心強いというふうに思います。

それで，じゃあこのままでいいこともあるかな。もうこれはいいや。例えばですけれども，若い方たちがおっしゃってますけども，会社の飲み会，これもういいかな。もう，嫌々お付合いしてた人も若い人たちもいるよね。なんでちょっと忘年会，最初少なかったですよね。どうもいろんな会社でもですね，忘年会を復活させるところはまだまだ少ないらしいんですよね。もう年，忘れんでもいいやん，家でね，ゆっくりご飯食べる機会増えて，それでもいいやんとかですね。それでは，マスクはね，やっぱりしたままの方がいいかなと思う。（会場挙手）多いですよね。もうマスクとか手洗いとか，せっかく

身についたこの衛生の習慣は大事にしてもいいかな。マスク外したいって欧米の方すごくマスク嫌いみたいですね。なんか言うともうすぐマスク外したいって言うんですけど，日本の方はそうでもないよねと，それより先にそれこそ人と会うとかですね，大事なことがいろいろあるよねという，ようなこともあります。

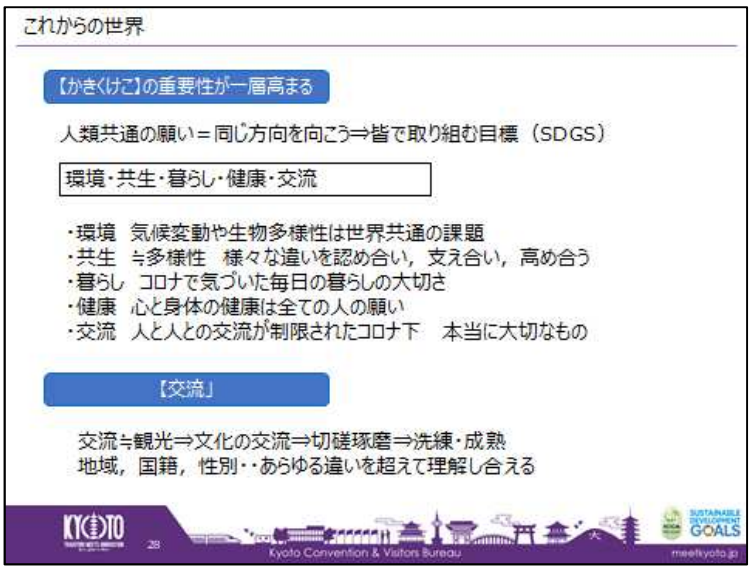
で，かえってよかったことも，色々あろうかと思いますけれども。お家にいる時間が長くなったんで，家が綺麗になったような気がする。（会場挙手）掃除を進めました。断捨離とかいろいろありましたですよね。それから，やっぱりね，音楽とか美術とかそういう芸術って大事やなっていうのを，もう１回再認識しました。（会場挙手）ありがとうございます。すごい嬉しいですね，やっぱり文化大事です。で，本を読むことが増えましたなんていう方もいらっしゃいますかね。（会場挙手）ねえ，うれしいですね，生涯学習といたしましてはですね図書館なんかも大いに利用していただきたいですし，本を読む時間が増えたと。いや，日本人の心のためにもすごく，いいことだと思います。

で，もっと進めたいことなんかもあるかなと思うんですけども。日本はデジタル化が遅れてる，オンラインがもうちょっとちゃんとしてたら，あの１０万円もっと早く配れたかもしれないね，ってこんな話もありました。デジタル化をもうちょっと進めたいなっていう方。（会場挙手）ね，そうですよね。頑張ってマイナンバーも進めていきましょう。会議のやり方とか，長時間の会議がよくなくなったので，随分その効率化されたね。こういうことはもうちょっと進めていってもいいかもしれないですね。全部集まらんでもいいやん。事前に資料読んどいて。チャッとこう，短時間でやろうなんていうね。それから，窓口に行かなくても，インターネットとかで，かなりのことができるようになった。これはいいなと思う方。（会場挙手）ありがとうございます。これからね，市役所も全部窓口じゃなくて。市役所だけじゃないですね。銀行も郵便局も，窓口じゃなくてできるんやったらそれでいいと。その代わりに，市の職員とかは，窓口開かずに，本当に長いことおつき合いしなあかん方，お話をじっくり聞いて欲しい方，それから相談にしっかり乗って欲しい方に寄り添っていくような，そういう行政とか，それから銀行の方もそうですね，お一人お一人のご相談に乗っていくような，そういうふうにしていきたいなということもあります。宅配が便利になりました。そういうこともいいんですけども，ぜひ忘れてはならないなと思うことがあります。

最初に申しました，ごみを収集してくれる人とか，スーパーの人とか，当たり前の暮らしを支えてくれていた人たちへの感謝，これは忘れてはいけないな。（会場挙手）ありがとうございます。手を挙げるまでもなくですね。私すごく思うんですけれども，このコロナの時に再認識した，色んなそういう方たち，あるいは当たり前の暮らしへの感謝の心，これは忘れないで，大事にとっておいてですね，それこそ京都が次に変わっていくために，本当に考えていく土台になるようなことではないかと思います。

● これからの世界と京都～観光・MICE

少し世界の流れっていうのを見ていきたいというふうに思います。「かきくけこ」でまとめてみました。これ，田中田鶴子（生涯学習市民フォーラム）顧問のご講演から知恵をいただいて，私が私なりに，今，大事なことを考えてみたんですけど。「環境」です。世界共通の課題であります。温暖化も言われてます。気候変動のおかげで災害が増えたとも言われてます。もう世界を挙げて取り組まないといけない環境問題。それこそＣＯＰ２６，今，グラスゴーで開かれていますけども，また京都でやって欲しいぐらいですよね。京都でやったら，またいい結論出るんじゃないかと思います。



それから「共生」。多様性が大事ですということで，男性とか女性とか性別とかで区別するんじゃない。ジェンダーということもそうですし，パラリンピックで明らかになりました，障害があっても生き生きと活動できるということもあります。障害も，別に人と人とを隔てることにはなりません。国籍もそうです，肌の色の違いもそうです。いろんなことをお互い認め合って，一緒に生きていくっていう共生が大事な時代になってまいりました。

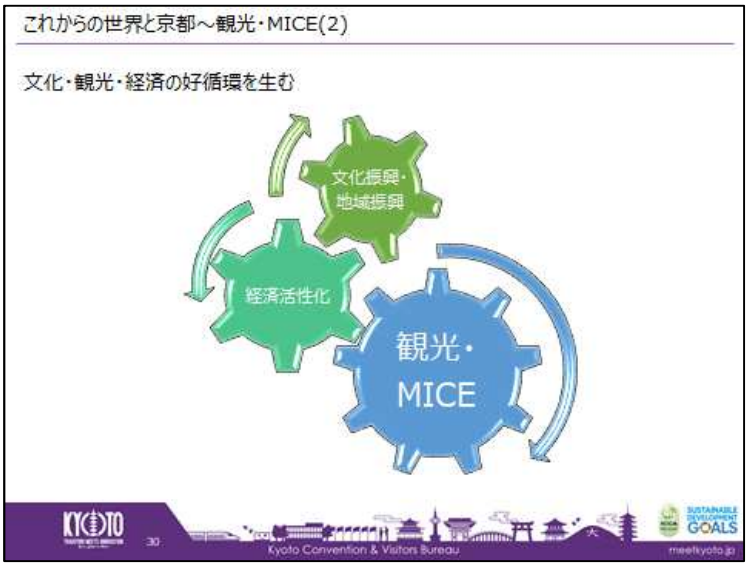
それから「くらし」です。先ほど，お家のことも言いましたけども，コロナで気づきました。お家の中の暮らし，毎日の積み重ね，これがとっても大事だということに私た

ちは気づいた。これは世界の人々が気づいたんではないかというふうに思います。

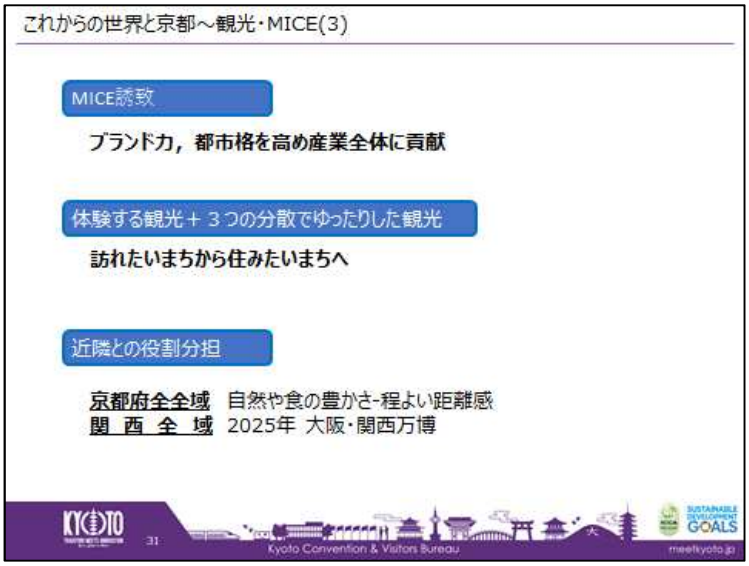
そして「健康」です。改めてですけれども，コロナが怖いねって言ってるときに，ご自分の免疫力をあげましょう，自分の体力を上げましょうっていうこともいろいろ言われましたけども，やっぱり体が健康でないと何もできないよね。特にですね，体もそうですけども，心，の健康というのが大事だね。一人になって，気づかされた。人と交流することで自分がどんだけ心が健康に保たれていたのか。先ほど文化芸術，見直していただきましたけども，これはやはりですね，心の健康というところが大きいんじゃないかなと思います。

そしてそのためにも，人と人との「交流」が大事だということに，一度，行動・交流が制限された私たちは，もう一度，交流の大切さを再認識したのではないかというふうに思います。そしてまた，うちの仕事に戻るんですけれども，交流というのは，世界的に考えれば観光なんです。自分とは違う生活の場に，場所を移すっていうのが観光でありますし，そのときには必然的に，文化，うちの国とは違うね，私の習慣とは違うねということが，外国なり，よその地に行けば分かるというのが文化の交流でありまして，それが先ほど申しました共生，あらゆる違いを超えて理解し合えるということにも繋がって参りますし，いろいろ意見を交換することで，自分たちとは違う環境にいる人たちのことを思うことで環境問題にも，また近づくことができるということであります。

で，こういうことを，会議ですとかあるいはミーティングなどですね，人が，人と人とが集まることで進めていくと，いうことで，それをやりながらですね，地域の文化を振興していく，地域を振興していく，その間には経済の活性化ということも入りですね，様々な良い循環を生んでいきたい，こんなことであります。で，ＭＩＣＥを誘致してくることでですね，京都という都市の都市格を高めて産業全体に貢献したいということを思っております。



それで，これから考えていくことなんですけれども，観光というのはですね，ただ行って見るだけではなくて，訪れてしまったら，もうそこは気に入っちゃってもう住んでしまいたいよ，というぐらいの気に入り方。瀬戸内寂聴先生がそうなんですよね。京都に住みたいって言って，お亡くなりになる直前まで寂庵で，もともと東京の方ですけども，住んでいただきましたよね。だから京都というところは，本当に「訪れたいまち」から「住みたいまち」になれる可能性があるし，それからオンラインなどで世界と繋が



ってどこででも仕事ができるという状況になれば，京都に住んで，アメリカの仕事をすることもできるんですよね。だから，本当に住みたいまちになって欲しいな。そのためにはゆったりとした観光で，深く京都の文化，京都のよさを味わって欲しいなというふうに思います。

そして京都のあり方なんですけれども，京都市の中だけではなくて，コロナでね，密っていうのがよくない，やっぱり広い自然の中で楽しむということも大事だということで，京都府の北部の方も含めて，自然のあるところ，食のおいしいところ，様々なところ，味わっていく，京都府全域の観光。それから，２０２５年には大阪で，関西万博ございます。２０２５年に大阪に多く人が集まるということは，京都にも何か役割があるんじゃないか，というふうに思いますので，あれは大阪で開くことだから関係ないということではなくて，京都もその中で，何か果たしていける役割があるだろうというふうに思います。こういうふうに近隣ともですね，相互に連携しながら，発展していくということが大事じゃないかと思います。

● くらしと調和する観光

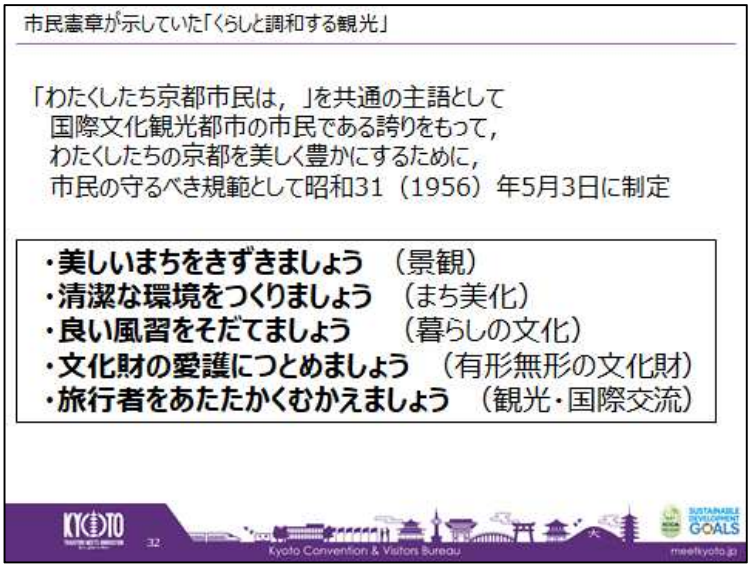
それともう一つは，原点に帰ろうと思います。私たちが長らく，昭和３１年からですね，大事にしてきた京都の市民憲章であります。今この市民憲章を見返してみると，なんてよくできてるのかなというふうに思います。今，京都が持っているよさのすべては，市民の皆様が築いてきたものなんですね。市民の皆様の振る舞いこそが，京都のすばらしさを支えてきたのだということが，この市民憲章でわかります。

京都市市民憲章

京都市市民憲章は，私たちのまち・京都を美しく豊かにするために，市民の守るべき規範として，昭和 31 年に市民の皆様の手により制定されました。今日まで，住みよいまちづくりのために大切にしたいみんなの約束ごととして大きな役割をはたしています。

「美しいまちをきずきましょう」ということで，景観を維持するために，市民の皆さんは様々な犠牲を払ってこられました。家は，この高さまでしか建ててはいけません。伝統的な地区にあるお家はですね，ちゃんと簾を下げてくださいよとかですね。家を改装するのにもいろいろなお金を掛けたり手間を掛けたりして景観を守ってきました。お商売をされてる方は，屋外広告物の規制で，看板も随分外していただいたかと思いますけども，おかげで，今，京都の町中の通りをスッと見渡すと，四条通で東を見たら東山，

西を見たら西山がスッと見渡せます。すごく綺麗な町です。これはね市民の皆様のご協力のおかげだというふうに思います。



そして，地面の方を見ると，「清潔な環境をつくりましょう」。まち美化，門掃きです。本当にごみの少ないまちです。京都に来て多くの外国人の方々が，このまちの美しさが一番印象に残ったっておっしゃいます。毎日毎日の市民の方々の門掃きが，京都というまちの魅力を作っている。

そして，「良い風習をそだてましょう」。暮らしの文化であります。スーパーから買ってきたお惣菜をそのままパックで，パックから食べるのではない，ちゃんとお皿に移してですね，忙しいときでも綺麗に盛りつけて食べる。できればですね，材料から買ってきて，お家で丁寧に作って食べる。そういう毎日毎日の積み重ねの暮らしの文化が，京都の人たちの豊かさ，心の豊かさを育んできたし，それが文化を育んできたかなというふうに思います。

そしてその上で，文化財を愛護しましょうということで，これは有形無形の文化財であります。伝統芸能なんかも見に行くということも，文化を育てることになりますし，それから神社仏閣に行ったときに，そこのものを丁寧に扱っていただくことも大事です。京都の市民みんなで「文化財の愛護につとめましょう」ということであります。

そして最後はですね，「旅行者をあたたかくむかえましょう」ということです。一時，観光公害なんていうことが聞かれましてですね，観光客が多いとバスがいっぱいで乗れへん，迷惑やっていうお声もたくさんいただきまして，観光に携わる者も大変心を痛めたところでございます，もう市民の皆さんにご迷惑をおかけしてんのかなというふうに思ったんですけども。そこはいろいろ工夫をしてですね，市民と旅行者の方々が共存できるような，例えばマナーを守っていただけるようなことを事前にお知らせをしたり，様々な努力もしておりますし，迎える方もですね，少し広い心で教えてあげようと。知らんねんなと。最初に私がですね，何も知らずに京都市の職員になったときに，周りの市民の皆さんはとても温かく迎えていただいて，知らんことを１個１個教えてくださいました。そういうふうにして，旅行者の皆さんも，京都ファンになっていってくださるんだと思いますので，温かく旅行者を迎えていただきたいなというふうに思います。

振り返ってみると本当に京都が京都であるための知恵が，すごくこの市民憲章の中にも詰まっているように思います。

● 京都らしさを世界へ

そして，深く考える。京都には，深く考えるきっかけがたくさんございます。最初お話の中でちらっと申しましたけど，本当にね，世界的な企業の経営者の方々が，大変なストレスを抱えながら，お仕事をしている毎日。京都にやってきて，禅寺で座禅をされるということがよくあるんだそうです。昨年ここの講師をされました松山大耕さんという方がですね，まさに，英語もお達者でですね，禅の心を英語で海外の方に説明したりもされるんですけど，そういう人材も京都にはたくさんいらっしゃいましてですね。京都は今，世界から求められているものを惜しみなく発揮していけたらいいなというふうに思います。

都市格ということも申しましたけども，京都の都市格の格というのはですね，人格の格と一緒なんですよね。で，人格が高くて，人に尊敬される人っていうのは自分のことばっかり考えてる人じゃない。人のために何かしてあげることはないかなっていうふうに常に考えてる人が，人格の高い人だというふうに言われるように，京都が高い都市格を保っていようと思ったら，京都のことばっかり考えてるんじゃない，今，世界のために，京都が何ができるんだろうかっていうことを考えるのが，本当に都市格の高い都市ではないかというふうに思います。京都の老舗の方々がですね，三方よしということを言われて，「顧客よし」ですね，それから「取引先がよし」「世間がよし」ということで，世間よしということを常に考えておられたように，京都も「世界よし」ということを考えながら育っていくのが良いのではないかなというふうに思っています。

ここ石畳の先にですね，少し光が差しております。必ずですね，このコロナの中から抜け出して，世界の光の中で，京都が京都らしくあり続けることができますように，市民の皆様にもいろいろご協力をいただければというふうに思います。ご清聴，大変ありがとうございました。またご協力ありがとうございました。

● 書籍紹介

すいません，最後に大事なお知らせをひとつ。私の先輩として副市長をしておられました藤田さんという方がですね，「レジリエンス京都！」という本をおまとめになりました。藤田ＣＲＯ著のですね，「レジリエンス京都！」機会がありましたらぜひお手に取ってご覧くださいませ。山極壽一先生が帯を書いておられます。推薦の言葉を述べておられますけれども，私が先ほどから述べて参りましたような京都のよさ，京都の底力といったようなことがですね，しっかりと書いてあります。レジリエンスということは，しなやかな回復力ということでありますので，しなやかに回復していく京都の話をぜひ，「レジリエンス京都！」で，お読みいただければというふうに思います。本日はおつき合い誠にありがとうございました。